

## 絵本の読み聞かせ時の演じ分けが子どもに与える影響

森 円花

絵本の読み聞かせは一般的に子どもの想像力や言語能力を育てるとされている。そのような読み聞かせの効果には絵本の読み方が影響すると言われており、より良く作用するような読み方を明らかにすることは重要な課題である。絵本の読み方の中でも、重要な要素として演じて読むことが挙げられる。絵本を演じて読むことは保育実践者や保育専攻学生に望ましくない絵本の読み方であると認識されている一方で、読み聞かせのコツとして表情を豊かに読むことが挙げられているように見解は様々である。しかしながら、これらの見解を実験的に検証した研究はない。そこで本研究では、演じて読み聞かせることが聞き手である子どもに与える影響を実験的に検証することを目的とする。検証項目は登場人物に対する印象と物語理解の2点である。

実験参加者は30名(男児18名、女児12名)であり、4歳児7名、5歳児14名、6歳児9名である。実験参加者にLCスケール(言語・コミュニケーション発達スケール)の「手ごたえ課題」を実施し、言語能力が均等な2グループに分け、それぞれを演じ分けをした読み聞かせを行う演じ分け群と、演じ分けをしない読み聞かせを行う統制群とした。実験における読み聞かせは録音を聞かせることで行うため、演じ分けをした読み聞かせと演じ分けをしない読み聞かせの2種類の録音を用意した。ここで、統制群で使用する録音は、公共図書館で長く読み聞かせを実施している職員の読み聞かせを実際に聞かせてもらい、それを基準として作成した。実験は一対一で行い、まず読み聞かせの録音を聞かせた後で印象調査と理解度テストを実施した。印象調査は登場人物に対する印象を測る質問2項目からなり、理解度テストは物語の事象を問う問題6項目と登場人物の心情を問う問題5項目の計11項目から成る。なお、分析は実験参加者の言語能力を統制するために、4歳児とLCスケールでの得点が著しく低い実験参加者を省いた22名である。

印象調査の結果から、演じ分け群では統制群に比べて一番嫌な登場人物が特定の登場人物に印象が偏る傾向が見られた。一方、理解度テストの結果では心情を測る質問にのみ有意差が見られた。また、演じ分けをしていない場面における心情を問う3項目のうち2項目で、演じ分け群の正答率が統制群に比べて半分以下と低かった。

以上のことから、絵本を演じ分けて読み聞かせることで、登場人物に対する印象に影響を与える可能性があることが分かった。また、物語理解の総合得点に対する演じ分けの影響は見られなかったが、演じ分けのない場面における登場人物の心情への印象が相対的に薄れてしまう可能性が示された。今後の課題は、肉声との違い、声の質の違い、演じ分けの度合いによる影響を明らかにし、読み聞かせの効果が聞き手により良く作用するような絵本の読み方を調査していく必要がある。

(指導教員 松村 敦)